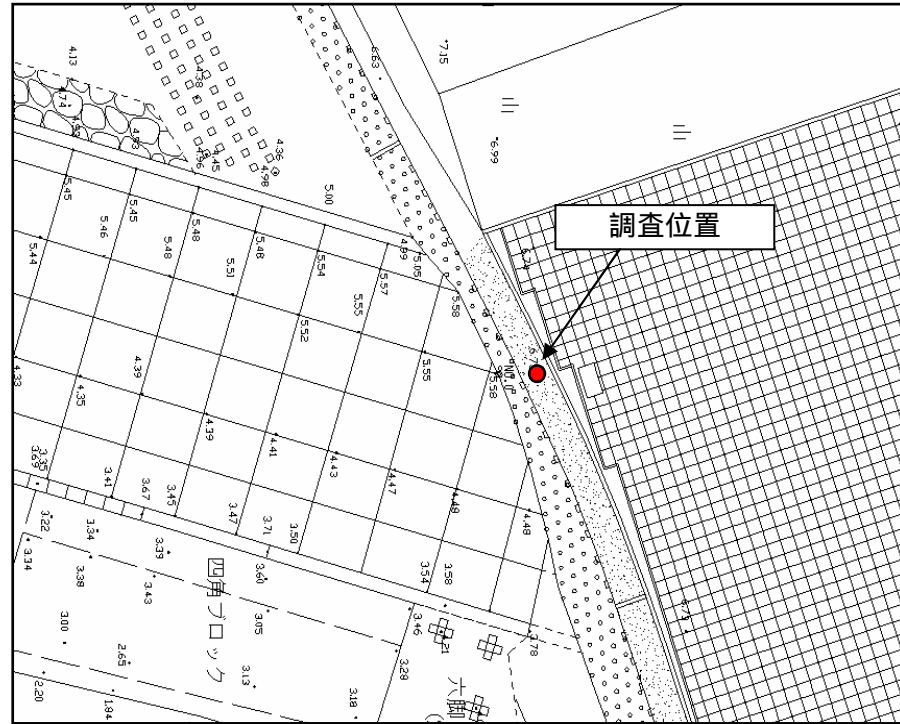


## 7. 左岸袖部ボーリング調査

第十堰左岸袖部に本体が貫入しているかどうかの確認を実施した。  
 地表面下1.25mにて厚さ1mのコンクリートが存在し、第十堰本体が左岸袖部に貫入していることが確認された。



調査位置図



ボーリング位置



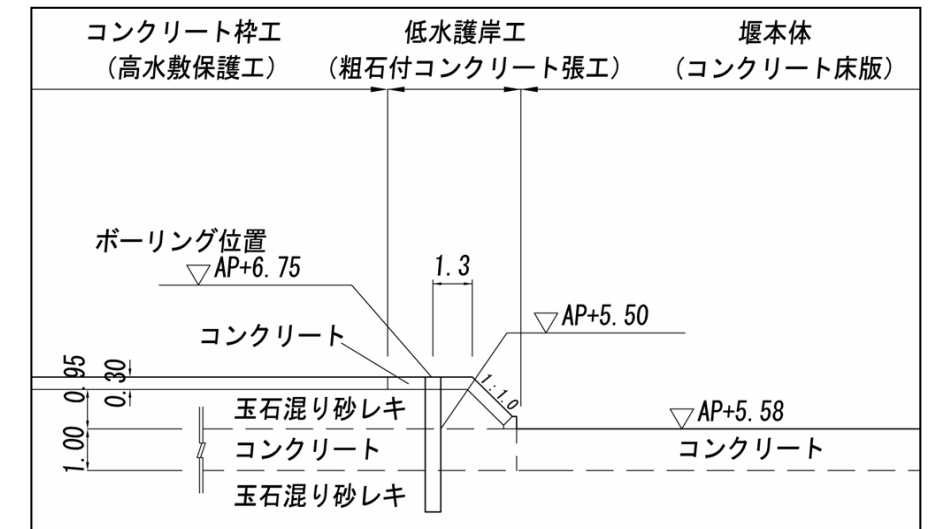
調査状況



コア写真

標尺	層高	層厚	深度	柱状	土質	色	相対	相対	記
(m)	(m)	(m)	(m)	図	区分	調	調	度	事
6.45	0.30	0.30		コンクリート	灰				表層コンクリート。コア採取長L=30cm。
1	5.50	0.95	1.25	玉石混り砂礫	暗褐色				φ2~40mmの歪円~歪角礫と細~粗砂が主体。 練質は砂岩・泥岩・チャート質が主体。 0.30~0.40m: 玉石(砂岩質)。
2	4.50	1.00	2.25	コンクリート	灰				堰本体コンクリート。コア採取長L=20~30cm。
3	3.50	1.00	3.25	玉石混り砂礫	暗褐色				φ2~50mmの歪円~歪角礫と細~粗砂が主体。 練質は砂岩・泥岩・チャート質が主体。 2.25~2.83m: 玉石(チャート質) 3.10m以深は少量の細粒分(シルト・粘土分)が混入。

柱状図



推定断面図